

病害虫発生予報 第7号(10月予報)

平成23年9月30日
和歌山県

< 予報の概要 >

作物名	病害虫名	発生量	作物名	病害虫名	発生量
トマト ミニトマト	黄化葉巻病	やや多	野菜・花 き全般	アブラムシ類 ハダニ類 シロイチモジヨトウ オオタバコガ ハスモンヨトウ タバココナジラミ オンシツコナジラミ ミナキイロアザミウマ ミカンキイロアザミウマ	並 並 並 並 やや少 並 並 やや少
エンドウ	褐斑病、褐紋病 つる枯細菌病 うどんこ病	並 並 並			
			カンキツ	ミカンハダニ	やや少
ダイコン ハクサイ キャベツ	コナガ	並	果樹全般	カメムシ類	(紀北地域) 並 (紀南地域) 多

気象予報

1か月予報（予報期間 9月24日～10月23日 大阪管区气象台）

< 予想される向こう1か月の天候 >

向こう1か月の出現の可能性が最も大きい天候と、特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。

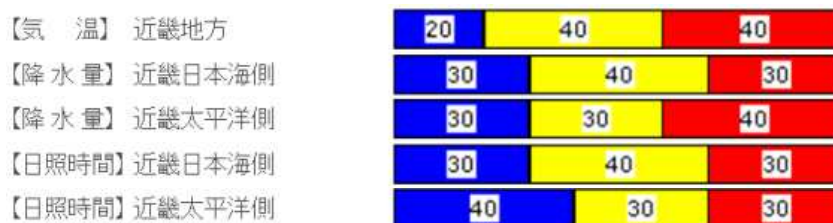
天気は数日の周期で変わるでしょう。

向こう1か月の平均気温は、平年並または高い確率ともに40%です。

週別の気温は、1週目は、高い確率50%です。2週目は、低い確率50%です。

3～4週目は、平年並または高い確率ともに40%です

< 向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（%） >



凡例: ■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)

10月	月平均気温（平年値） （℃）		月降水量（平年値） （mm）	
	和歌山	18.8	和歌山	122
潮岬	19.8	潮岬	244	

I. 野菜・花き

<トマト、ミニトマト>

1. 黄化葉巻病

(1) 予報内容 発生量 やや多

(2) 予報の根拠

① 紀中地域の施設栽培ミニトマトにおける発生ほ場率は9月6半旬現在、6.3%（過去4年間の平均1.6%）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 施設栽培では防虫ネット（目合い0.4mm以下）で開口部を被覆する。

② タバココナジラミの初期徹底防除に努める。

③ 感染株は見つけしだい根元から抜き取り、直ちに土中に埋めるか、ビニル袋で密封して枯死させる。

④ 家庭菜園を含む露地栽培トマトについては、栽培終了後は速やかに全株を引き抜き、野積みにした上を古ビニルなどで覆って2週間以上密封し、タバココナジラミを死滅させる。

⑤ 雑草はタバココナジラミの発生源となるため、ほ場周辺を含め除草を徹底する。

<エンドウ>

1. 褐斑病、褐紋病

(1) 予報内容 発生程度 並

(2) 予報の根拠

① 紀中地域の露地栽培エンドウにおける発生ほ場率は9月6半旬現在、0%（過去5年間の平均0%）であった。

② 10月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 抑制栽培では、開花期ごろからの発生に注意する。

② 多湿畑で発生しやすいので、排水に注意する。

③ 種子伝染するので、多発ほ場では採種しない。

2. つる枯細菌病

(1) 予報内容 発生程度 並

(2) 予報の根拠

① 紀中地域の露地栽培エンドウにおける発生ほ場率は9月6半旬現在、0%（過去5年間の平均0%）であった。

② 10月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 本病は、褐斑病、褐紋病と葉の病斑が酷似するので注意する。褐斑病、褐紋病が日光に透かしても不透明であるのに対し、本病は光が透けて見えることで区別できる。

② 防風ネットの発病抑制効果は高い。

③ 種子伝染するので、発生ほ場では採種しない。

3. うどんこ病

(1) 予報内容 発生程度 並

(2) 予報の根拠

① 紀中地域の露地栽培エンドウにおける発生ほ場率は9月6半旬現在、0%（過去5年間の平均0%）であった。

② 10月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 乾燥すると莢形成期以降に発生しやすい。
- ② 発生初期より防除を行う。

<ダイコン、ハクサイ、キャベツ>

1. コナガ

- (1) 予報内容 発生量 並
- (2) 予報の根拠
 - ① フェロモントラップによる9月の誘殺数は4半旬現在、紀の川市0頭（平成0.2頭）、和歌山市5頭と平成並である。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① 抵抗性の発達をできるだけ抑制するために、作用機構が異なる薬剤間でローテーション散布を行う。
 - ② キャベツ、ハクサイでは、収穫後に作物残さを放置するとそこが発生源になり、周囲のほ場に成虫が分散して発生が多くなる。したがって、収穫後は速やかに残さをすき込む。

<野菜・花き全般>

1. アブラムシ類

- (1) 予報内容 発生量 並
- (2) 予報の根拠
 - ① 紀北地域の露地栽培ナスでは9月5半旬現在、モモアカアブラムシの発生ほ場率33%（平成19%）、寄生葉率1.7%（平成2.4%）と平成並であった。ワタアブラムシは発生ほ場率11%（平成27%）、寄生葉率0.6%（平成5.0%）と平成に比べやや少なかった。
 - ② 9月の黄色水盤への飛来数は4半旬現在、紀の川市で6頭（平成95頭）と平成に比べやや少ない。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① シルバーマルチは有翅虫の飛来防止効果が高い。
 - ② イチゴなどハウス栽培では定植前後の防除を徹底する。

2. ハダニ類

- (1) 予報内容 発生量 並
- (2) 予報の根拠
 - ① 紀北地域の露地栽培ナスでは9月5半旬現在、カンザワハダニの発生ほ場率22%（平成23%）、寄生葉率3.3%（平成5.5%）と平成並であった。ナミハダニは発生が認められなかった（平成発生ほ場率18%、寄生葉率4.8%）。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① キクに発生したナミハダニが移動するので、キクに近いほ場では特に発生に注意する。

3. シロイチモジヨトウ

- (1) 予報内容 発生量 並
- (2) 予報の根拠
 - ① 紀中地域の露地栽培エンドウでは9月6半旬現在、発生ほ場率29%（平成28%）、寄生株率5.3%（平成5.2%）と平成並であった。
 - ② フェロモントラップによる9月の誘殺数は4半旬現在、紀の川市7頭（平成33頭）、御坊市37頭（平成42頭）と平成並である。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① 中齢幼虫期以降になると薬剤防除効果が著しく低下するので、若齢幼虫期の防除を徹底する。

4. オオタバコガ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 紀中地域の露地栽培エンドウでは9月6半旬現在、発生ほ場率24%（平年29%）、寄生株率2.9%（平年4.3%）と平年並であった。

② フェロモントラップによる9月の誘殺数は4半旬現在、紀の川市20頭（平年6.2頭）、御坊市0頭（平年6.5頭）と平年並である。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 若齢幼虫期の防除を徹底する。中齢幼虫期以降になると薬剤防除効果が著しく低下し、生長点付近の芯部や花・果実内に食入するので防除が困難になる。

5. ハスモンヨトウ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 紀北地域の露地栽培ナスでは9月5半旬現在、発生ほ場率22%（平年38%）、寄生葉率1.1%（平年2.8%）であった。

② 紀中地域の露地栽培エンドウでは9月6半旬現在、発生ほ場率29%（平年33%）、寄生株率3.5%（平年4.3%）であった。

③ フェロモントラップによる9月の誘殺数は4半旬現在、紀の川市474頭（平年339頭）、和歌山市1460頭、御坊市54頭（平年581頭）である。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 中齢幼虫期以降になると薬剤防除効果が著しく低下するので、若齢幼虫期の防除を徹底する。

6. タバココナジラミ

(1) 予報内容 発生量 やや少

(2) 予報の根拠

① 紀北地域の露地栽培ナスでは9月5半旬現在、タバココナジラミの発生ほ場率22%（平年40%）、寄生葉率1.7%（平年10.9%）と平年に比べやや少なかった。

7. オンシツコナジラミ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 紀北地域の露地栽培ナスでは9月5半旬現在、オンシツコナジラミの発生ほ場率44%（平年40%）、寄生葉率5.0%（平年6.8%）と平年並であった。

8. ミナミキイロアザミウマ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 紀北地域の露地栽培ナスでは9月5半旬現在、発生ほ場率56%（平年63%）、寄生葉率10%（平年30%）と平年並であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 促成栽培ナス等の育苗は発生ほ場の近くで行わない。防虫ネットを被覆して成虫の飛び込みを防ぐ（「防除指針」参照）。

9. ミカンキイロアザミウマ

(1) 予報内容 発生量 やや少

(2) 予報の根拠

- ① 紀北地域の露地栽培ナスでは9月5半旬現在、発生が認められなかった（平年発生ほ場率5%、寄生葉率0.7%）。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① イチゴではミツバチの導入前に徹底防除を行う。

Ⅱ．果 樹

<カンキツ>

1. ミカンハダニ

- (1) 予報内容 発生量 やや少
- (2) 予報の根拠
 - ① 県予察ほ場における9月中旬の発生は、無防除園において平年並で、慣行防除園では認められなかった。
 - ② 9月中旬の巡回調査では、寄生葉率は7.6%（平年8.2%）と平年並、発生園率は17%（平年36%）と平年に比べやや少なかった。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① 薬剤抵抗性が発達しやすいため、同一薬剤を年間に複数回使用しない。
 - ② 秋期のダニ防除が遅れた園では、早急に薬剤散布を行う。

<果樹全般>

1. カメムシ類

- (1) 予報内容 発生量 紀北地域：並 紀南地域：多
- (2) 予報の根拠
 - ① 9月中旬のカキの巡回調査における慣行防除園では、「富有」、「刀根早生」、「平核無」ともに被害はみられなかった。
 - ② 8～9月中旬の予察灯における果樹カメムシ類（チャハネカメムシ、ツヤアカメムシ）の誘殺数は、みなべ町東本庄（防除所みなべ駐在）では平年より多く、有田川町奥（同有田川駐在）および紀の川市粉河（同紀の川駐在）では平年並であった。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① 園内外の果樹カメムシ類の発生と果実被害の状況を常に観察する。
 - ② 飛来のみられる園では、登録農薬を直ちに散布する。ただし、収穫期の散布となる場合は使用基準に十分注意する。
 - ③ 台風通過後一時的に増加する場合があるので、飛来に注意する。
 - ④ カメムシ類の発生状況は、県農林水産総合技術センターのホームページ内各種情報の果樹カメムシ情報（URL：<http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/070109/yosatu/kamemusi/kamemusi.htm>）を参照する。

本情報は、下記の方法でもご覧頂けます。

○農業環境・鳥獣害対策室ホームページ <農作物病虫害防除所コーナー>

<http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/070300/071400/boujyosyo-yosatsujyouhou.html>

○和歌山県ホームページ <わかやま県政ニュース>

<http://wave.pref.wakayama.lg.jp/news/kensei/>

※詳しくは、農作物病虫害防除所(TEL 0736-64-2300)までお願いします。

